Pasco

CSR報告書 2021

いつものパンを、これからも。

Pasco

CSR報告書 2021

contents

01 編集方針、PascoのCSRビジョン

03 トップコミットメント
持続可能な社会をめざして私たちが今、なすべきこと

08 特集
未来へつないでいくために

13 **豊かな食生活のために**

15 **社会への貢献**

17 **地球環境のために**

18 **ロス・ムダ・コスト削減**

19 **働きがいのある職場づくり**

21 会社概要

22 第三者評価、第三者評価を受けて

表紙について

Pascoのパンは、日常の中にある「いつものパン」です。毎日の食事やおやつに、手軽においしく食べられる商品として、暮らしの中にあり続けたい。そんな想いを込めて、パンのある日常のワンシーンをイラストにしました。

※表紙のイラストレーター　秋山洋子さんのプロフィールをPascoのホームページで紹介しています。

編集方針

Pascoは2020年に創業100周年を迎えました。次の100年に向けて1歩を踏み出した本報告書のテーマは「いつものパンを、これからも。」としました。社会が変化しても、いつものパンをお届けし、人々の日常を支えていくという想いを表現しています。

新型コロナウイルスの感染拡大は依然として続き、社会課題が今まで以上に浮き彫りとなる中で、SDGsに取り組む意義と必要性はさらに増しています。Pascoでは昨年4つのSDGs委員会が発足し、より組織的・計画的なSDGsの取り組みがスタートしています。本書では各委員長がSDGsへの貢献に懸ける想いや、今後の目標をご紹介しています。

是非、この報告書をお読みいただき、みなさまからご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

◆報告書内に掲載（写真を含む）している商品の中には発行時期によっては取り扱っていないものがございます。あらかじめご了承ください。
◆社員は取材時の所属名を記載しています。

対象期間	2020年9月1日～2021年8月31日の実績を中心に掲載しています。一部にこの期間前後の取り組み内容を含みます。
対象範囲	敷島製パン株式会社（Pasco）および連結子会社・持分法適用会社のうち主要な8社（グループ企業）を対象としています。 ※Panash Limitedを含みます。
発行時期	2021年11月 （次回：2022年11月予定、前回：2020年11月）
参照ガイドライン	GRIスタンダード

ホームページでは、
本報告書の内容をはじめ、
各種データやガイドラインとの対比表、
過去の報告内容などを掲載しています。

https://www.pasconet.co.jp/csr

PascoのCSRビジョン

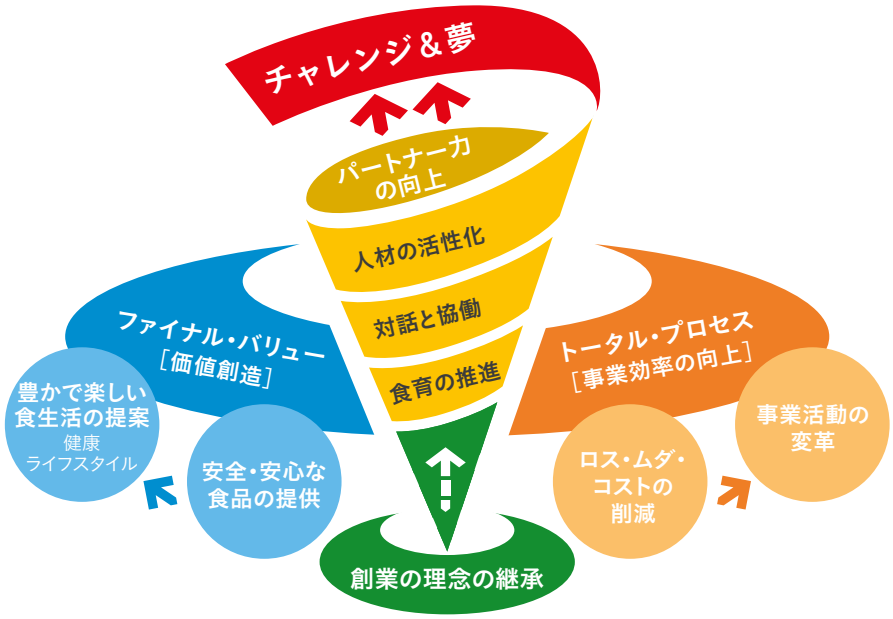
チャレンジ&夢を実現するための二つのテーマ「ファイナル・バリュー」と「トータル・プロセス」の取り組みを推進させる原動力となるのが「パートナー力」。
Pascoのパートナーとは、お取引先様や協力企業様、お客さま、地域のみなさま、グループ企業、そして社内の各部門、社員一人ひとり。
パートナー力向上のため、お客さまとの対話を大切にし、お取引先様や協力企業様との協働を図ります。

ファイナル・バリュー
～価値創造の取り組み～

- 安全・安心な商品、豊かで楽しい食生活に貢献できる商品の提供など、お客さまにとって「価値のある商品」の実現。

トータル・プロセス
～事業効率の向上の取り組み～

- あらゆる部門でのロス・ムダ・コスト削減。
- 社外のパートナーとの対話・協働による効率性の向上。
- 環境負荷の少ない持続可能な社会の実現。



創業の理念

金儲けは結果であり、目的ではない。
食糧難の解決が開業の第一の意義であり、事業は社会に貢献するところがあればこそ発展する。

Pasco CSR報告書におけるSDGs※の位置づけ

Pascoは以下の7つの目標への貢献に取り組んでいます。
P09～20およびホームページにおいて関連性を明示しています。

※持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）：
持続可能な開発のための17のグローバル目標からなる、国連の開発目標。

2 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安全確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公正で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

12 つくる責任つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

トップコミットメント

座談会参加者：後列左から盛田委員長、村山委員長、
前列左から山田委員長、盛田社長、家田委員長

持続可能な社会をめざして私たちが今、なすべきこと

**Pascoが最初にSDGsに対する姿勢を表明したのは、2018年のCSR報告書です。
まずは事業を俯瞰（ふかん）してSDGsの17目標を対比させ、特に関連が深い7つの目標を表明しました。
そして創業100周年を迎えた2020年6月8日に新経営理念を発表後、7つのSDGs目標に向けて組織的にアプローチし、
課題解決していくために4つのSDGs委員会を設置しました。
今回のトップコミットメントでは、盛田社長とSDGs委員会の4委員長がSDGsの貢献に向けて、
これからPascoが何をなすべきかについて語り合いました。**

PascoがSDGsへの貢献に取り組む理由

盛田社長 Pascoは1920年、食糧難という当時の社会課題の解決をめざして創業しました。米騒動は、米の価格高騰による食糧難が引き起こした社会不安です。持続可能な社会の実現に向けてさまざまな社会課題の解決に取り組むSDGsは、創業の理念に基づく事業活動を追求する過程で、Pascoとごく自然につながってきました。2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴う度重なる緊急事態宣言の際には、事業活動や日常生活までもが止まってしまうことを目の当たりにしました。その時に、「パン売場に行けば、いつもどおりパンが並んでいる」という当たり前の日常風景を支え

SDGs目標達成に向けて

SDGs委員長としての決意

盛田 淳夫
代表取締役社長

「事業は社会に貢献するところがあればこそ発展する」という創業の理念を踏まえ、「知の探索」を強化しながら、社会課題に積極的に取り組んでいきます。

SDGs飢餓ゼロ・健康委員会委員長

山田 真彦
取締役 上席執行役員
開発本部長

活動成果が「商品」という形で現れる委員会なので、PascoのSDGsがお客さまやお取引先様の目に見える形として具現化できるよう、取り組んでいきます。

ることが、Pascoの役割・責任を果たすことだと、社員一人ひとりが改めて実感できたと思います。これは、SDGsの「誰一人取り残さない」という考え方にも通じると思っています。

これからやってくるアフターコロナの時代を前に、今は劇的な変化の最中にあります。さまざまな課題が生じている今こそ、バックキャスティング※思考で何をなすべきか考え、行動することが国や企業、個人にとって必要だと考えています。それはPascoにおいても同様で、SDGsに取り組む必要性や意義を改めて感じます。

2020年9月、経営層で構成する「SDGs 100年委員会」の下に、4つの「SDGs委員会」を設置しました。SDGs目標と組織の目標を関連づけて、より組織的・計画的に取り組むためです。それぞれの委員会では、SDGs目標についてどんな課題を捉え、どんな活動を進めていますか？

盛田社長が中部経済同友会代表幹事として2020年8月に主催した「第44回夏季セミナー」の様子。SDGsの実現をめざしてさまざまな社会課題解決に取り組む講師によるパネルディスカッションが実施された

※バックキャスティング：あるべき将来を定義した上で、それを実現するための計画を策定する方法

4つのSDGs委員会の活動について

山田 SDGs飢餓ゼロ・健康委員会の課題の背景の一つには、食料の供給に関わる不安定さがあります。日本は食料自給率が低く、パンの原料となる小麦の多くを輸入に頼っていますが、世界的な政治不安や気候変動による価格高騰など、小麦の確保に不安があります。製パンメーカーとしてパンを安定的に供給する責務を果たすために、Pascoは国産小麦の使用比率を上げる活動に取り組んでいるのです。

二つめに、人々の健康面の課題があります。それぞれの事情で十分に栄養が摂れていない、あるいは栄養のバランスが偏っているなど、健康不安を抱えている方がいます。Pascoは不足しがちな栄養を補ったり、糖質を控えたりと、さまざまな選択肢のある商品を提供できるので、これからも健康づくりに役立つ商品をさらに提案していくことを考えています。

三つめは、色々な視点からのリスクへの備えです。世界的な食糧課題に対しては、最近話題となっている昆虫をタンパク源として扱うことや、家畜に依存している肉原料を植物由来のものに代替していくことなども含め、あらゆる可能性を探っています。

国産小麦の商品づくりを推進するため、
北海道の小麦に関わる方々とパートナーシップを結んでいます

大豆ミートや豆乳など
植物由来の原材料を使用した「&Green」の商品

村山 これまでもPascoでは、自社における製造から販売のプロセスに焦点を当て、地球環境に配慮した持続可能な天然資源の利用拡大やムダの撲滅、食品ロス・廃棄物削減に継続して取り組んできました。SDGsつくる責任つかう責任委員会では、原材料の調達先から消費段階の家庭にまで視野を広げ、持続可能な生産と消費が行われるように取り組んでいく予定です。

SDGs教育・ジェンダー平等委員会委員長

家田 茂

常務取締役 上席執行役員
総務本部長

委員会の取り組み内容に合わせて、さまざまな地域や職種の若手社員を中心としたメンバーで構成しています。学びながら議論を活発にすることで、目標達成をめざします。

SDGs技術革新委員会委員長

盛田 兼由

代表取締役
専務

地球温暖化防止策やアフターコロナ時代に対応するために有効な武器となるのがAIやロボット技術です。バックキャスティング発想で高い目標に向けて挑戦します。

SDGsつくる責任つかう責任委員会委員長

村山 昇一

上席執行役員
生産本部長

地球環境への配慮のためのムダの撲滅、食品ロス・廃棄物の削減などは、以前から取り組んできた重要なテーマです。より視野を広げ、持続可能な生産と消費が行われるよう進めていきます。

当委員会のメンバーには、製造現場から多くの社員に参加してもらい、実践的な議論を行っています。たとえば工場に入るときには、服に付着している毛髪やゴミを除去するために粘着テープを使いますが、使用後には粘着テープのゴミが発生します。手洗いを徹底すればペーパータオルのごみも発生します。このような日頃の活動方法も見直す必要があるという意見が出ました。安全や品質の確保、生産性の向上だけでなく、製造する責任を俯瞰してさらに改善策を考えていくような力が、社員一人ひとりに備わっていくことを期待しています。

盛田 SDGs技術革新委員会は、世界や国（日本）による温室効果ガス削減の目標達成へ貢献することがテーマです。「2030年に、Pascoの事業活動における温室効果ガスや二酸化炭素（CO_2）の排出量を2013年度比で50%削減する」という高い目標を掲げ、AI・ロボット化などによる技術革新に取り組んでいます。また、日本国内では急激に少子高齢化

が進んだため、労働人口の減少など、さまざまな形で社会の変化が起こると考えられます。

Pascoを取り巻く外部環境の変化に柔軟に対応するには、一人あたりの労働生産性を高めることが重要であり、人材や雇用の確保、需要に対する生産能力とのバランス、輸出事業での製品競争力の強化などにおいても、AI・ロボット技術を活用した労働生産性の向上への取り組みを強力に進めています。

家田 SDGs教育・ジェンダー平等委員会も、少子高齢化という社会課題の解決に向けて取り組みを進めています。家庭において、女性だけが子育てや家事を行うのでは負荷が大きくなりすぎ、働く女性は結婚や出産ができなくなってしまいます。男性がもっと参画することによって、人口が増えていくという研究者の指摘もありますし、仕事か生活のどちらかでなく、働きがいと生きがいが両立されるべきという考えで、働き方についても多様な選択肢を提供したいと考えています。

Pascoでは以前から働き方改革という観点でワークライフバランスに取り組み、制度や規定を整備してきましたが、実際に活用されるには、やはり組織全体の意識改革が不可欠で、社員一人ひとりの気持ちや意識の変革が欠かせません。また、ジェンダー平等というより大きな観点から、女性の活躍推進も含め、みんなが生き生きと働くことのできる職場づく

上）輸出用の超熟（6枚スライス）
左）海外の売場の様子

りをめざしています。働き方は生活や家庭にも大きな影響を与えますから、社員と職場の価値観の共有や、仕事のための生活、生活のための仕事の実現といった課題に取り組んでいきたいと考えています。

刈谷工場の敷地内にある「Pascoかりや保育園」

一方、SDGs目標である質の高い教育については、Pascoの役割やできることとして、食を通じた啓発活動をテーマに挙げています。Pascoではこれまでも、中高生との国産小麦「ゆめちから」の栽培プログラム、幼稚園や保育園に絵本を贈呈といった取り組みを行ってきましたが、さらに幅広い視野で活動を展開していきます。

盛田社長 みなさんの話に挙がったように、少子高齢化や人口減少という社会課題に対して、労働生産性を向上させることは、ワークライフバランスの向上や社員の働きがい、生きがいにもつながります。人口減少に対しては、男性の育休取得など家庭のあり方を変えていくために、Pascoの事業活動のあり方を考えていくことが必要です。このように相互に影響して物事が進んでいくことを俯瞰すると、多様な課題に向き合い、さまざまな対応策を選択できるようにすることがいかに重要か、多くの示唆がありますね。

委員会活動から生まれた新たなパートナーシップ

家田 SDGs教育・ジェンダー平等委員会は、委員長とリーダー以外のメンバーに、管理職は1人も参加していません。営業や生産、総務など各部門から、30代前後の若手のチーフクラスの人たちに参加してもらっています。会議の際、メンバーは実務から離れた議論や、通常の仕事とは違う頭の使い方をすることもあります。最初は戸惑うことも多かったようですが、継続していくうちに活発な議論が行われるようになり、非常に頼もしいと感じながら、毎回の委員会を進めています。みなさんの委員会でも新たな成果があると思いますが、どうですか。

山田 食に対するニーズはますます多様化・細分化しており、それに合った商品を供給していくのが食品メーカーの課題です。そのためにPascoにはない技術を有するベンチャー企業についての情報を収集しながら、Pascoの事業活動に取り込めるものを試すといった流れで、未来を見据えたいろいろな商品開発を進めています。たとえば、タンパク質が豊富で、餌の量や水使用量、温室効果ガスの排出量も少ないことから環境負荷が少ない食用コオロギのパウダーが入った新商品を通販で販売したところ、ご関心や好評のお声をいただきました。今後はこうした商品を広く紹介しながら、お客さまとともに持続的な食料の安定供給について考えていくことも、われわれの活動の一つです。

Pascoはお客さまに食品を商品として提供している会社ですから、原料を供給していただくパートナー企業に対しても、

食品衛生や安全・安心など、Pascoの規格や品質に合致するものを供給してもらうため、たえず対話を重ねています。SDGs飢餓ゼロ・健康委員会の活動成果は、商品という形で現れるので、Pascoの商品が10年後にどのような姿になっているのか、楽しみでもありますし、やりがいにも通じるところです。これは委員会のメンバーも同じように感じていると思います。

未来を見据えた新たな商品開発を進める「Pasco未来食研究開発プロジェクトチーム」発足時メンバー
後列左から3番目 FUTURENAUT株式会社 代表取締役CEO 櫻井 蓮様、
同5番目 同社 取締役CTO 飯島 明宏様

Pascoの工場に並ぶトラック

村山 SDGsつくる責任つかう責任委員会の活動は、TPM活動（P18参照）に代表される継続的な改善活動がメインになります。食品廃棄物削減については、調達、製造などサプライチェーンが集まって流通などと連携し、食品廃棄物の50%削減に向けて実践活動に取り組む食品廃棄物削減イニシアティブにPascoも参加しています。今後は業種を超えて情報を共有し、Pascoだけではなしえない活動を展開していくこともあると思います。社外の方の力を借りたり、生活者の立場になって考えたりと、社員みんながよく考え、改善する力をどんどん身につけられるよう取り組んでいきます。技術は今後さらに進歩していくと思うので、次世代を担う方々には、これまでの延長線上の改善だけでなく、夢を持って改善していくことを強く意識してもらいたいですね。

盛田 SDGs技術革新委員会では、「視野を広く持ち、好奇心を持つことが今こそ重要です」とメンバーに言っています。「バックキャスティングの発想で、失敗を恐れずに果敢に挑戦するアジャイル（機敏な）開発で取り組んでいきましょう」とも。既存の組織を根本的に見直し、壊していくくらいの発想で、技術の革新に挑戦しています。

たとえば、当委員会の分科会の一つ「排気ガス半減分科会」の取り組みの一環として、名古屋大学発のスタートアップ企業「株式会社オプティマインド」が開発した、配送ルート最適化システム「Loogia（ルージア）」の導入があります。2020年1月から最適化実証実験に着手していますが、実用化できれば輸送時の走行距離を短縮することが可能になるので、労働時間の削減や生産性の向上、CO_2排出削減といった効果も期待できます。また、委員会メンバーの意識が変わりつつあることも感じています。さらに100年、Pascoが発展していくために、SDGs委員会は非常に良い活動であり、社員のみなさんのためにもなると確信しています。

家田 SDGs委員会の活動は、スタートしたばかりではありますが、委員会同士あるいはメンバー間でお互いの想いを共有し、理解しあうことで、より大きなことができるようになる良い機会ではないでしょうか。将来に向けた投資としての活動という観点からも、継続して活動に取り組んでいきたいと考えています。

Pascoが今、なすべきこと

盛田社長 これから迎えるアフターコロナの時代には、明治維新や第2次世界大戦後に匹敵するような、劇的な変化が起きると言われています。その中でPascoが取り残されないためには、2030年のあるべき姿を思い描き、まさにバックキャスティングで、今なすべきことは何かを考えることが必要です。そのときに大事なのは、やはりスピード感。また、視野を広げるには社内の知見だけでは物事を判断できないので、社外にも目を向け好奇心や探究心を持って課題に向き合うことも大事です。

お客さまからの期待に応えられるよう、Pascoはさまざまな選択肢を提供していきたい。国産小麦などを使用した商品開発にも取り組んでいますが、課題解決を見据え、幅広い視点で議論していくことは、選択肢を提供するための活動の例です。元来Pascoが力を入れてきた改善活動は、既存の技術やノウハウを磨き上げていく「知の深化」でしたが、これからはPascoにないさまざまな知見を世の中に探し求めていく「知の探索」を強化していくことが不可欠です。そして見つけた知見をイノベーションにつなげ、さまざまな課題を解決していく姿勢が重要だと考えています。

社会の変化に関心を持ち、課題解決に向けて挑戦していく姿勢は、創業の理念に由来するPascoの伝統であり、社会に貢献する使命を果たすために欠かせないものです。各委員長の言葉にあったように、SDGs委員会の活動はまだ始まったばかりです。みなさんにはリーダーシップを発揮して、委員会メンバーの議論や活動を推進していただくよう期待しています。

今は社会が大きく変化する時代にあり、一人ひとりが将来のために何をなすべきかを考え、行動することが重要です。PascoはSDGs委員会の活動から社内や社外との対話をさらに活発化し、全社に理解・浸透させながら、直面するさまざまな社会課題に対して積極的に取り組んでいきます。

特集 未来へつないでいくために

特集ではSDGs各委員会の設置理由やめざす目標を紹介します。
何のためにそれらの目標に取り組んでいるのか、
各職場で試行錯誤しながら目標達成に向けて挑戦を続けている社員の思いや、取り組み内容を紹介します。

SDGs取り組みの経緯

PascoはSDGsコンパスに則り、2019年からSDGsの社内への浸透をめざした3つの取り組み（SDGs100年委員会、SDGs理解浸透策、SDGs更なる貢献ワークショップ）を推進するとともに、SDGs100年委員会のもとに4つのSDGs委員会を発足させ、理解浸透から実践の段階へ組織的な取り組みを進めてきました。

SDGsコンパスとは：企業がSDGsを活用するための行動指針

- 第1ステップ SDGsを理解する
- 第2ステップ 優先課題を決定する
- 第3ステップ 目標を設定する
- 第4ステップ 経営を統合する
- 第5ステップ 報告とコミュニケーションを行う

3つの取り組み

- SDGs100年委員会
- SDGs理解浸透策
- SDGs更なる貢献ワークショップ

4つのSDGs委員会

- SDGs飢餓ゼロ・健康委員会
- SDGs教育・ジェンダー平等委員会
- SDGs技術革新委員会
- SDGsつくる責任つかう責任委員会

SDGs100年委員会

経営層が対象。SDGsに取り組む意義や必要性を議論する場。

対象 経営層　実施 2020年9月14日、12月8日、2021年8月10日

経営幹部を対象とし、SDGsへの取り組みを社員が安心して進めていくために、まずは経営層がSDGsを十分に理解することが必要なため、SDGsについて議論し理解を深める場として設置しました。サステナブルに関する特別講演と、理解浸透策、ワークショップの実施内容を報告。SDGs100年委員会のもと発足した各委員会の取り組みの目標や進捗についても報告およびレビューを実施しました。

（株）日本総合研究所　足達英一郎理事による特別講演の様子

SDGs理解浸透策

社員一人ひとりが自身の業務とSDGsとの関わりを理解する。

「Do my SDGs」カード

対象 全社員　実施 職場教育2021年2月、目標実践2021年3～8月

SDGsへの理解をさらに深め、自分ごととして捉えることを目標として、SDGs理解浸透教育を実施しました。教育ではSDGsとは何かを学んだのちに、業務の中でSDGsに貢献するための「私の目標」を「Do my SDGs」カードに記入。周りの人や子どもたちがずっと笑顔で暮らせる世界に変えていくため、全社員が「ちょっとの取り組み」を積み重ねています。

「私の目標」はリレー形式で社内SNSに投稿し、共有しています。

アイドリングストップを活用する（目標13）。エンジン停止＝CO_2排出削減につながると考え、率先して実施しています

田中 優人
刈谷工場 設備課

SDGs更なる貢献ワークショップ

2030年に変革を担う若手が中心。将来の変化を描き、SDGsへの更なる貢献のあり方を考える。

対象 2030年に変革を担う若手社員（SDGs委員会推薦メンバー、公募メンバー）
実施 2021年2～7月 全5回 オンライン開催

SDGsの実行を担う「4つのSDGs委員会」のメンバーに加え、社内公募によるメンバーが参加し、Pascoが将来に向けて行うべき新しい事業や取り組みのアイディアをみんなで考えるワークショップを実施しました。この過程を通して、世の中の変化を先読みする洞察力やバックキャスティングの思考方法を身につけました。

SDGs各委員会の取り組み

SDGs 飢餓ゼロ・健康委員会

未来を見据えた持続的な食糧の安定供給や、生活者の健康づくりへの貢献に向けて取り組みます。

SDGs目標

目標と主な指標（KPI）

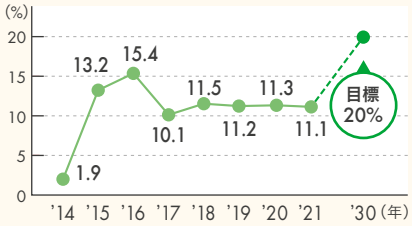
1.国産小麦の社内使用比率を2030年までに20%へ引き上げ
2030年：国産小麦の社内使用比率を2017年比で倍増させる

2.生活者の健康づくりに役立つ製品比率の引き上げ
2030年：健康志向製品の売上を2020年度比で倍増させる

3.食糧不安に備えた未来視点での製品開発
2030年：代替肉や昆虫を活用した製品アイテムを2020年度比で3倍に増やす

国産小麦の積極的な活用を推進

日本の食料自給率向上へ貢献するため、国産小麦を使用した商品ラインアップの充実、既存商品への利用拡充を進めています。引き続き、2030年までに国産小麦の使用比率20%をめざして取り組みを続けていきます。



※2014～2020年は1月から12月末までの年間実績値、2021年は1月から8月末までの速報値です。※「CSR報告書2020年版」に掲載の2020年の数値は1月から8月末までの速報値です。※国産小麦の生産状況などにより、使用比率が減少する場合もあります。

バラエティブレッドシリーズをリニューアル

毎日の食事の中で健康を意識したい方もうれしい、Pascoの主力商品である「超熟ライ麦入り」、「くるみブレッド」を2021年2月にリニューアルしました。ライ麦粒やくるみの食感をより感じていただけるよう品質を向上させたほか、シリーズ全アイテムのパッケージデザインを刷新し、売場での華やかさを演出しています。

食用コオロギパウダーを使用した商品を発売

世界の人口増加による未来の食糧不安に備え、持続的な食糧の安定供給の一環として、貴重なタンパク源として地球にも優しい昆虫食に着目し「Korogi Cafe」シリーズを発売しました。従来型畜産業に比べ、コオロギは餌の量も少なく、水使用量、温室効果ガスの排出量も少なくて済みます。このシリーズが食生活や未来の食について考えるきっかけになればと考えています。

2020年12月に発売し、2日で完売。以来、月に1回の予約販売を行っています

委員会にかける思い

原 正人
研究開発部
菓子研究開発グループ
専任課長

菓子商品の開発や新技術・新原料の研究のほか、未来食プロジェクト、輸出プロジェクト、新製パン製法研究プロジェクト、焼成後冷凍商品向けの研究開発業務に携わっている。

継続してきた取り組みが目標によってやりがいに

普段からさまざまな研究開発に取り組んでいますが、委員会活動によってSDGsと新商品開発の関連性を深く理解できました。国産小麦を使った商品が増えれば食料自給率向上につながり、農業の課題解決に貢献できます。食用昆虫や植物由来素材の使用では環境負荷を減らせます。目標によってやるべきことが明確になり、一層やりがいを感じています。

SDGsの観点で新たなチャレンジを

SDGsについて真剣に考えたく、SDGs更なる貢献ワークショップに参加し、バックキャスティング思考を身につけることができました。業務では委員会のメンバーである上司の指導のもと、商品の販促立案や市場分析を行う上で、未来を考えた健康づくりに携わっています。Pascoの強みを磨きながら、SDGsの観点で新しい事業にもチャレンジしたいです。

木下 晶帆
イーストカンパニー
販売促進グループ

商品の販促立案、市場・データ分析、SNSデジタル施策などの業務を担当。世の中の変化をいち早く察知できるよう気を配りながら、営業の支援となるような施策を日々模索している。

SDGs教育・ジェンダー平等委員会

経営理念にもある「機会平等の職場づくり」に基づいたジェンダー平等の推進と、「食」による教育支援を通じた社会貢献に取り組みます。

SDGs目標

目標と主な指標（KPI）

1.ワークライフバランス、ダイバーシティ・インクルージョンの推進

①女性管理職比率：30%（2030年9月時点）

②6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間：1日あたり150分

2.食を通じた教育活動

「食」を通じた教育活動で10万人に影響を与える

東京大学大学院経済学研究科 山口慎太郎教授と共同研究をスタート

「ワークライフバランス」「女性活躍」「男性の家事参画」の切り口で分析を行い、新たな人事施策を企画・検討します。その取り組みの一つとして、社内でのアンケートを実施し、より具体的な課題把握につなげます。また、「心理的安全性」「働きがい」といった数値化しにくい項目を見える化し、施策の企画や効果検証に活用します。

教育に対する4つの取り組みを企画、取り組みごとに分科会を結成し、詳細を検討

教育に対する4つの取り組みを企画、立案しました。「A 製品売上の一部を寄付」「B 余剰製品の有効活用」は貧困による教育格差に悩む子どもたちを救うため、子ども食堂などの教育団体へ行う支援です。また、「C 食に関する教育機会の提供」は食品メーカーの強みを活かし、食の大切さを次世代に伝える取り組みであり、「D 社員の教育機会の提供および金銭的支援」は、社内の社員に対する教育支援です。今後は取り組みごとに分科会を結成、関係部門を交えて詳細を検討し、取り組みを加速させます。

共同研究の流れ

東京大学大学院山口慎太郎教授・Pasco共同研究

東京大学大学院 山口慎太郎教授
- 当社の傾向の分析
- 施策に対する助言
- 新たな施策の提案
- 他社事例の紹介

⇄

Pasco
- 検討課題・施策に関する情報提供

取り組み案

取り組み	2021
A 製品売上の一部を寄付	分科会結成
B 余剰製品の有効活用	
C 食に関する教育機会の提供	
D 社員の教育機会の提供および金銭的支援	

Bの事例としてフードバンクとの連携を進行中

委員会にかける思い

小川 賢志
執行役員
人事部長

時代に即した採用・賃金制度の検討やダイバーシティ・インクルージョンの推進、営業業務の見える化、人材育成、コンプライアンス意識の向上といった人事業務に取り組んでいる。

創業の理念から続く精神でSDGs目標に取り組む

人事部としてこれまでもジェンダー平等に取り組んできましたが、委員会が発足したことで全社を巻き込み、会社の仕組み自体を変えていくような活動へ進化させます。また、食糧難の解決をめざした創業の理念は脈々と我々の中でも息づいており、委員会を通じて関係部門と連携しながら、フードバンクとの取り組みも第一歩を踏み出すところです。

他のメンバーに刺激を受け普段の業務への意識も変化

委員会では普段の業務では関わりのない人たちと10年後のPascoについて話し合ったことや、問題意識の高いメンバーにも刺激を受け、視野を広く持つことを意識するようになりました。少しずつでも知識をアップデートし、育児や介護などの制約がある人でも自己実現を達成できる会社をめざすとともに、子どもたちに食事の大切さや楽しさを伝えていきたいです。

杉本 由佳
広域冷食部
営業一課 係長

3人の子どもを育てながら時短勤務制度を活用中。冷凍生地や焼成後冷凍パンの営業職として、コンビニやファストフードなどの広域チェーンのお取引先様への提案業務を担当している。

SDGs各委員会の取り組み

SDGs 技術革新委員会

2030年にCO_2排出量50%削減、労働生産性2倍を達成するために、現状調査とともに社外から情報を幅広く収集し、問題解決に取り組みます。

SDGs目標

目標と主な指標（KPI）

1.温室効果ガス排出量削減による地球温暖化防止
当社事業活動における温室効果ガス（CO_2）排出量を2013年度比50%削減

2.AI・ロボット化などの技術革新への取り組み
当社の労働生産性（製品標準卸／総労働時間）を2017年度比2倍に引き上げ（直接製造に関わる部分のみ）

生産AI・ロボット活用への取り組み

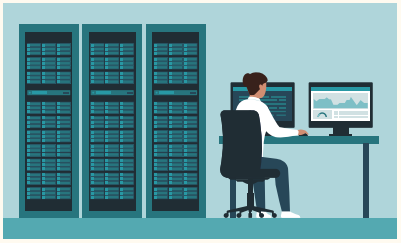
AI・ロボット技術を活用して労働生産性2倍をめざしています。生産ラインでの手作業（塗る・切る・ねじる・載せる・充填するなど）に適応した多能工ロボットの開発により、手作業の自動化および品質安定を図るべく取り組みを進めています。

ロボットを活用した「なごやん」の箱詰め

生産設備IoT化への取り組み

生産設備IoT構築により労働生産性2倍をめざしています。すべての設備稼働状況をリモート監視できる体制を構築し、焼成温度・時間などの製品品質に関わるデータや、設備の故障・チョコ停※の発生要因分析につながるデータなどを収集することで、オペレーターなどの間接作業削減の取り組みを進めています。

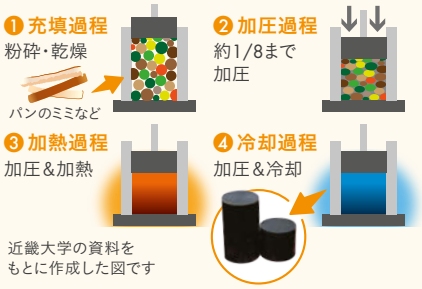
※チョコ停：一時的に設備や生産が停止すること



CO_2排出量半減への取り組み

工場・オフィスを対象として、電気・ガスのエネルギー使用におけるCO_2排出量半減をめざしています。省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの情報収集とその研究に取り組んでおり、その一つとして、バイオマス廃棄物から製造するカーボンニュートラルな次世代固形燃料であるバイオコークスについて、近畿大学とともに共同研究を進めていきます。

バイオコークスの製造工程イメージ



近畿大学の資料をもとに作成した図です

委員会にかける思い

杉田 康一郎
原価低減・革新部
部長

全工場の生産プロセスを見直し、原価低減と生産業務の革新的な効率化をめざして2020年9月に新設された部門で、バックキャスティング思考でゼロベースから業務に取り組んでいる。

技術革新の取り組みは働く環境を整えるため

委員会では完全無人化ラインの研究、手作業のロボットへの置き換え、生産設備のIoT化などによって労働生産性2倍の達成をめざしています。製造現場の手作業や作業負荷を減らすことは、安全・安心に働ける環境を整えることにつながる、Pascoらしい取り組みだと思います。IoTを駆使して点検しにくい箇所や設備の状態を見える化し、予防保全を進めていきます。

大きな目標達成のために全く違う視点で考える

労働生産性2倍という大きな目標は本当に達成できるのかと思いましたが、どんな変革を起こすかを考えるのはとても楽しいです。製造現場はまだ手作業が多いので、AIやロボット、IoTの活用方法を考え、労働生産性の向上に取り組んでいます。製造ラインの完全無人化をめざしていますが、今までの考え方では実現できないと思うので、全く違った視点を持ちたいです。

村井 彩乃
技術部
AI・ロボット開発グループ

技術部員として普段の業務でもAI・ロボット・IoTなどの新技術を活用し、生産や保全の課題解決に取り組んでいる。技術の進化に置いていかれないよう日々勉強中。

SDGsつくる責任 つかう責任委員会

すべての廃棄物量の削減、持続可能な天然資源の利用向上、食品ロス・食品廃棄物の削減のために取り組みを始めています。

SDGs目標

12 つくる責任 つかう責任　17 パートナーシップで目標を達成しよう

目標と主な指標（KPI）

1.地球環境のためにすべての廃棄物量の削減
容器包装に関わる石油由来100%のプラスチック使用重量を2019年度比25%削減
工場から排出される廃棄物を2019年度比25%削減

2.持続可能な天然資源の利用向上　段ボール箱、化粧箱のFSC認証紙の使用率100%

3.食品ロス・食品廃棄物の削減　サプライチェーンを通じた食品ロス、食品廃棄物を2019年度比50%削減

地球環境のために すべての廃棄物量削減

廃棄物量削減として商品に使用される包装紙の薄肉化に取り組んでいます。国産小麦シリーズは包装紙の厚みを約14%削減。また、バイオマスプラスチックを使用した包装紙を採用するなど、石油由来100%のプラスチック使用量の削減活動を進めています。

持続可能な 天然資源の利用向上

天然資源の持続可能な調達のため、段ボール箱・化粧箱のFSC認証紙（適切な森林管理によって使用される木材を認証する制度）を使用した包材の採用を推進しています。神戸冷食プラントではFSC認証品の段ボール箱にて商品を提供。また持続可能な天然資源の利用向上をめざし、食品原材料についても活動を進めています。

FSC認証品の段ボール箱

食品ロス・ 食品廃棄物の削減

商品の設計からお客さまへ届くまでに発生する食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組んでいます。これまでもPascoにおける製造から販売のプロセスで発生する食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組んできましたが、さらに原材料の調達先からお客さままで視野を広げ、社会変化に対応した活動を進めています。

委員会にかける思い

黒須 力
広域営業本部
企画管理グループ
マネージャー

流通企業への折衝を担う広域営業本部のサポート業務を担当。予実管理・営業施策の立案や営業スタッフの支援など、お取引先様への貢献利益の最大化に努めている。

ハードルが高い課題に 社内外との協業で取り組む

Pascoは食品メーカーとして食品ロス削減に取り組んでいますが、委員会では現状の商習慣の中で発生するものや、社外で発生している食品ロスについても、社内外との協業によって削減をめざします。社内だけでは解決できない課題ですが、企業理念にある「社会への貢献」という視点でも、サプライチェーンと協業して食品ロスを削減していきたいと思っています。

社会課題の解決に取り組み 支持される会社をめざす

プラスチック使用量削減のため、包装紙の薄肉化やバイオマス包材の採用に取り組んでいます。委員会に参加して、自分たちの世代が未来を担う当事者だという意識が強くなりました。SDGsという共通目標があることで、他部門との連携が取りやすくなったと思います。Pascoの取り組みがお客さまや社会全体に拡がり、支持されるよう社会課題の解決をめざします。

中出 茉優
調達部
原料調達グループ

調達部で商品に使用されるフィルム包材を担当。店頭での見た目や利便性を損なわないことを第一に、安全・安心な原材料の安定調達と、調達コストの削減に日々取り組んでいる。

豊かな食生活のために

より広くおいしさを届け、豊かな食生活を支え続けます。

「L'Oven(ル・オーブン)」から焼菓子「アヴェニュー・ド・ル・オーブン」を発売

2020年11月、オンラインショップから新たに「Avenue de L'Oven(アヴェニュー・ド・ル・オーブン)」を発売しました。フランスをはじめとするヨーロッパの伝統菓子の本場のおいしさを提供するプレミアムスイーツブランドです。こだわりの材料を贅沢に使い、グループ企業であるレアールパスコベーカリーズにて、職人が一つひとつ丁寧に手づくりしています。コロナ禍により買い物に行きにくくなった中でも、こだわりの焼菓子をご家庭で楽しんでいただけるようご自宅にお届けしています。

カヌレ・アソルティ
2種の詰め合わせ

ダックワーズ・アソルティ
4種の詰め合わせ

マドレーヌ・アソルティ
4種の詰め合わせ

「超熟フォカッチャ」をリニューアル

手軽でもおいしい食事を楽しみたいというお客さまの声にお応えするべく、2018年に「超熟フォカッチャ」を発売し、多彩で新しい食シーンの提案を行ってきました。2021年9月のリニューアルでは、生活者調査による品質面の評価に基づき改善を実施。配合を見直し、しっとりさ・やわらかさを改善するとともに、1個当たりの商品サイズを食べやすい大きさに改良し、4個入から5個入に変更しました。また、クロージャーの代わりに再封シールを採用し、利便性はそのままにプラスチック使用量を低減しました。

レンジ調理できる冷凍パン「とっておきSELECTION」を発売

2021年9月、焼成後冷凍パンの新ブランド「とっておきSELECTION」を発売しました。日持ちや買い置き需要により、家庭用冷凍食品への関心が高まっている中、ご家庭のレンジ調理で手軽においしく食べられる焼成後冷凍パンとして開発したものです。レンジ調理でも硬くならず、食べやすい食感に仕上がる配合にこだわり、発酵種ルヴァンの使用や石窯で焼き上げるなど、製法にもこだわったパンを、急速冷凍でおいしさを保ったままお届けしています。

「ミニバゲット」の調理例

ミニバゲット

クランベリー&オレンジのパン

信州みそ&大豆ミートのパン

紅茶&りんごのパン

ココア&デーツのパン

超熟フォカッチャ

チーズとオニオンの
フォカッチャ

パスコ・サポーターズ・クラブの取り組み

［オンラインお茶会、ライブ配信、工場見学］

パンが好きな人が集う会員制のコミュニティ「パスコ・サポーターズ・クラブ」では、コロナ禍でリアルイベントの開催が難しい状況のため、オンラインならではの交流イベントを展開しています。オンラインで集い、新商品を食べながら交流する「新商品オンラインお茶会」や、パンづくり相談会や料理教室のライブ配信、オンラインでの工場見学などを実施し、Pasco社員と会員さまや、会員さま同士の交流を図っています。また、オンラインでのグループインタビューなども実施し、会員さまからの生の声を、商品開発や改良につなげています。

オンライン工場見学の運営の様子

VOICE

髙田 加弥
営業DX推進部
デジタルコミュニケーショングループ

私が所属するデジタルコミュニケーショングループは、お客さまと直接コミュニケーションをとることができる数少ない部門の一つです。特に、顔をあわせてコミュニケーションできるイベントは、お客さまの心に深く残り、ブランドイメージ向上にもつながるものとして大切にしています。
特に現在、オンラインイベントに力を入れています。リアルイベントの開催が難しい中でも直に交流できるだけでなく、回数を増やすことができ、また遠方の方が参加しやすいのもメリットと感じています。
今後もお客さまとのコミュニケーションを大切に、私たちの発信をお客さまへ、お客さまの声を会社へ、双方向に届ける架け橋になりたいと思います。

低糖質シリーズ商品の拡充

2017年よりおいしいパンで気軽に糖質オフをめざせる商品として、低糖質のパン・菓子を販売しています。2021年9月にはシリーズの新商品として「低糖質くるみパン」を発売。あわせて、シリーズ全商品のパッケージをリニューアルしました。「糖質が抑えられた、おいしいパン」であることをアイコンで表示し、糖質などの各種数値は視認性を高めるなど、デザインの見直しを行いました。

低糖質
ブレッドプラン

低糖質
くるみパン

低糖質
イングリッシュ
マフィンプラン

消費・賞味期限延長の取り組み

流通や消費段階における食品ロス低減のため、消費・賞味期限を延長する取り組みを行っています。2020年10月には「満たされスイーツ」シリーズ、11月には「麦のめぐみ全粒粉入り食パン」の消費期限を、2021年5月には「国産小麦のワッフル」の賞味期限を延長しました。今後も品質を担保したうえで期限延長の取り組みを継続していきます。

「満たされスイーツ」シリーズ
フロランタンみたいなケーキ

麦のめぐみ
全粒粉入り食パン

国産小麦の
ワッフル

社会への貢献

地域との交流を大切にしながら豊かな社会づくりに貢献し続けます。

「コオロギの食育パンキット」を使った自由研究コンテストを開催

未来食として注目される“食用コオロギパウダー”を使ったパンが自宅でつくれる「コオロギの食育パンキット」を、7月よりオンラインショップ限定で発売しました。コロナ禍でおうち時間を過ごすことが多い中、「親子でパンをつくって、焼きたての味を楽しんでほしい」、「食用コオロギパウダーを使ったパンをつくることで、昆虫食を身近に感じ、未来の食について考えるきっかけにしてほしい」との想いから開発しました。食用コオロギについて解説した食育リーフレットや学習シートを用意したほか、夏休みの時期に合わせた自由研究コンテストやオンラインイベントを開催し、パンづくりを通した学びをサポートしました。

学習シート

VOICE

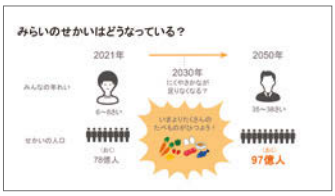
松澤 萌子
経営企画部
SDGs経営推進グループ チーフ
Pasco未来食研究開発
プロジェクトチームメンバー

昆虫食に罰ゲーム的な印象を持つお子さまもいる中、どう伝えたらコオロギの食品としての価値を楽しく正しく知ってもらえるかを第一に企画しました。ダヴィンチマスターズでは、最初はコオロギを気持ち悪がっていたお子さまも次第に前のめりで話を聞くようになり、商品を試食した時に「おいしい！」と言ってくれたのがうれしかったです。オンラインイベントへの参加をきっかけにパンキットを購入してくれたご家庭もあります。私たちの声が届く人はまだ少ないですが、深く知ってもらうことで、未来の食を考えるきっかけづくりに少しは貢献できたかと思います。これからも社会の課題解決につながる食を広める活動にチャレンジしていきます！

「ダヴィンチマスターズ」に参画し体験プログラムを実施

3月28日に開催された、子どもたちの“非認知能力”を育む人気のイベント「第25回ダヴィンチマスターズ」に参画し、食育と昆虫食に関わる体験プログラムを実施しました。「ダヴィンチマスターズ」は一般社団法人ダヴィンチマスターズが主催する小学校1年生～3年生向けの体験プログラムで、自己肯定感・思考力・行動力・他者との協働・社会意識力の5つを育む「非認知能力」の向上をめざしています。Pascoはこの活動に賛同し、子どもたちの食育に役立ち、持続可能な食料としての昆虫に触れる場となる体験プログラム「昆虫はヒーロー？！食べて学ぶ未来のごはん」を実施しました。体験プログラムはオンラインと対面の二部制で実施し、総勢100人を超える小学生が参加しました。未来の食としてPascoの「コオロギのフィナンシェ」の試食を交え、子どもたちに身近な食べ物を通して、楽しく未来の食について考えてもらう機会となりました。

未来食研究開発プロジェクトのメンバーが中心となり講師を担当



自分の普段の食事を例に栄養素について学び、その後未来の食糧問題について考えました

熊本復興応援のため「Pasco熊本県プロジェクト」を発足

2021年4月から9月末にかけて熊本県とコラボレーションし、熊本県産品の中から、Pascoが素材を厳選した「Pasco熊本県プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは「熊本地震や豪雨災害からの復興に取り組む、熊本県のみなさまを応援したい」という想いと「熊本県産素材の消費促進・認知拡大」に少しでも役立ちたいと考え、立ち上げたものです。コラボレーション商品の売上の一部（対象商品1個につき0.5円、上限100万円）を令和2年7月豪雨災害支援として熊本県へ寄付しました。

蒲島熊本県知事（右）に寄付金を贈呈

また、この縁から7月には熊本県球磨郡相良南小学校で、“昆虫食”とSDGsについて学んでもらう出前授業「SDGs講座 未来の食事を考える」を開催。Pasco社員が講師を務め、「コオロギのフィナンシェ」の試食も交えながら“未来の食事”について子どもたちに学んでもらいました。

令和2年7月豪雨災害支援として被災地の小学校にてパンを配布

© 2010 熊本県くまモン

高原宜希選手をアスリート社員として採用

スポーツを通じて社会に貢献したいという強い思いから、トップアスリートの就職支援制度「アスナビ」を活用し、2020年4月にスノーボードクロスの高原宜希選手を採用しました。高原選手は、世界で活躍するアスリートとして競技生活に邁進しており、企業として全力でサポートしています。

主な戦績

2018年	全日本選手権大会 優勝
2019年	オーストラリア・ニュージーランドカップ 優勝
2021年	ワールドカップ／ジョージア大会 7位

VOICE

高原 宜希
人事部長付（アスリート職）
Pasco Shikishima Ski Club 所属

日頃はトレーニングや海外遠征を行い、ワールドカップにも出場しています。急な合宿の決定や変更にも迅速に対応してもらうなど、Pascoからさまざまなサポートを受けて、スノーボードをはじめ新たな挑戦にも取り組んでいます。多くの方々に夢や希望を与えられる選手をめざして、全力を尽くしていきます。

国産小麦で食への関心を高める「ゆめちから栽培研究プログラム」

株式会社リバネスと協働で「ゆめちから栽培研究プログラム」に取り組んでいます。2012年より続くこのプログラムでは、中高生が国産小麦「ゆめちから」の栽培方法を各学校で研究し、その研究成果を発表しています。その体験を通して日頃食べているものがどのようにつくられたのかを意識し、人とのつながりの中で生きていることを学び、誰かのために行動できるきっかけにつなげることを目的としています。

愛知県内大学の文化系研究者を支援

愛知県の文化・学術の発展のため、1985年7月に公益財団法人「シキシマ学術・文化振興財団」を設立し、毎年、県内の大学で地域経済・社会・文化に関する研究調査を行う研究者6名の方々へ助成金を贈呈しています。文化系研究への助成は全国的に少なく、貴重な公益事業として活用されています。今後も愛知県をはじめ、ひろく地域・社会に貢献していけるよう、さまざまな取り組みやチャレンジを続けていきます。

地球環境のために

事業活動における影響を把握し、さまざまな保全活動を継続しています。

● 環境保全に関する目標と実績

項目		環境目標	2019年度実績	2020年度実績	達成度
エネルギー	生産・オフィス	生産・オフィスに係るエネルギー使用原単位※(原油換算kℓ/標準卸金額)を、中長期的にみて**年平均1%以上削減**	0.4233kℓ/百万円	0.4228kℓ/百万円	☁
	輸送	輸送に係るエネルギー使用原単位(原油換算kℓ/売上高)を、改正省エネ法に基づき**年平均1%以上削減**	0.0805kℓ/百万円	0.0843kℓ/百万円	☂
食品廃棄物		食品廃棄物発生原単位(食品廃棄物発生量/売上高)を、**166kg/百万円以下に削減**	181kg/百万円	194kg/百万円	☂
廃棄物全体のリサイクル		廃棄物全体のリサイクル率を、**90%を維持しさらに向上させる**	92.0%	91.4%	☀
食品廃棄物のリサイクル		食品廃棄物のリサイクル率を、**95%を維持し100%に近づける**	98.4%	98.1%	☀

生産・オフィスに係るエネルギー使用原単位は前年比99.9%と、1%削減目標が未達となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として換気量を増やしたことで、空調などのエネルギー使用量が増加したことが主な要因です。
廃棄物リサイクル率は、91.4%と前年より0.6%下降となりました。特に廃プラスチック類は、使用済プラスチックの輸入規制や国内RPF化施設の飽和状態化などによりリサイクル率が低迷しており、廃プラの排出量低減およびリサイクル率向上を急務として取り組んでいきます。

達成度:
☀ 当該年度の実績が目標値を上回りました。
☁ 当該年度の実績が目標値を下回りましたが、前年度より改善されました。
☂ 当該年度の実績が目標値を下回り、前年度より改善されませんでした。

※原単位とは、一定量の商品を生産するために必要な原材料やエネルギーなどの量を表す単位。

各種環境データの詳細については、ホームページに掲載しています。
https://www.pasconet.co.jp/csr/data

環境に配慮した自然冷媒式冷凍機を導入

神戸冷食プラントで自然冷媒式冷凍機4台を導入し、2021年2月より稼働しています。
自然冷媒式冷凍機とは、自然界に存在する物質を冷媒として使用する、環境に配慮した脱フロン設備です。脱フロンや温室効果ガスの削減を図り、既存の設備を更新し導入しました。省エネ性も高く、導入前と比較し冷凍機の電力使用量は約30%削減となっています。

照明のLED化を推進

2021年12月までに照明のLED化率100%を目標に活動しています。
2021年7月末時点のPasco本体(10工場+本社)のLED化率は83.4%となっています。
CO_2排出量では、照明のLED化により年間約3,010t-CO_2の削減となっています。

ロス・ムダ・コスト削減

品質の安定化とロス削減のため「TPM活動※」を継続しています。

※ TPM(トータル・プロダクティブ・メンテナンス/マネジメント)活動：
あらゆるロス・ムダ・コストを削減し、品質と生産性を高める改善活動。

パスコ多摩工場

「ミニバターロール」「ミニレーズンロール」の不良削減の取り組み

取り組みの背景

整形工程での不良を削減し、きれいな商品を焼き上げるために、生地のこねあげから整形までの作業の見直しを行った。

PASCO SPECIAL SELECTION(PSS)シリーズの誕生当時(1995年)からある商品

パスコ多摩工場製造二課PSSラインのメンバー

整形工程の流れ

❶ 分割 切って丸める

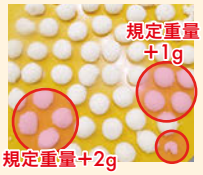
❷ ストレートモルダー 延ばして整える

❸ クレセントモルダー 巻いて整形する

❶ 分割での改善

改善前

生地の延ばし方が不均一だと…



分割後の生地重量が不均一

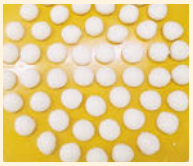
作業者教育

① 開発部門のメンバーの協力を得て、ミキシング・分割を中心に再教育を実施
② 日本語以外を母国語とするメンバーも技術をわかりやすく学べるよう教育動画を作成
③ ワンポイントレッスンシートの作成

「できる」▶「教えられる」にスキルアップ

改善後

生地の延ばし方が均一に！



分割後の生地重量も均一！

❷ ストレートモルダーでの改善

改善前

生地を伸ばす機械に投入するタイミングがずれると生地状態が不安定となりべたつく

生地が巻けない不良が発生

ピッチランプ設置

高速道路で車間距離を測る点滅ランプをヒントに、投入タイミングを点滅で知らせるランプを作成し、設置

生地投入のタイミングを点滅でお知らせ！

改善後

生地状態が安定し、べたつきが解消された

生地がきれいに巻ける！

※生地にある黒い斑点はレーズンです

他工程でもさまざまな改善を重ね、不良数ゼロを達成！

働きがいのある職場づくり

多様な社員がより安心して働ける職場環境づくりを推進しています。

介護に関する制度を全社員に周知

Pascoでは仕事と介護の両立を支援するため、制度の周知・拡充を進めています。2021年7月には、介護に関する正しい知識・会社の制度を周知するため、社内勉強会を実施しました。勉強会はオンラインで開催し、公的な支援や社内の制度、両立のためのポイントなどを解説。各項目5分程度の動画を作成・配信し、介護制度の理解浸透に活用しています。

介護に関する社内外の情報をまとめた冊子
「仕事と介護の両立サポート読本」

留学制度により社員の自己啓発を支援

社員の育成と自己啓発支援のため、社内外の各種機関への留学・研修制度を整えています。各コースとも公募を行い、それぞれに定められた勤続年数などの要件を満たす社員であれば、応募が可能です。ステップアップをめざす社員の成長意欲に応え、幅広い知識と技術を身につけた人材の育成を推進していきます。

社内教育機関「パスコアカデミー」。
社員が製パンの基礎知識や技能を修得します

留学・研修生公募コース一覧

- パスコアカデミー・パン製造科
- 日本パン技術研究所「製パン技術教育コース」
- ベーカリー店舗研修
- 経営コンサルタント養成講座
- 豊田工業大学大学院
- 国内社会人大学院
- ワークライフバランスコンサルタント養成講座
- 国立大学法人 帯広畜産大学大学院
- 北海道・夢パン研修

VOICE

中山 珠洲
北海道・夢パン研修（※）に留学中

将来的にパンの開発や研究に携わりたいと考えていて、そのために手作業でのパンづくりを1から身につけたいと思い、入社2年目に北海道・夢パン研修に留学しました。夢パン工房でのパンづくりは手作業がメインで、これまで工場で経験してきた機械でのパン製造とは大きく異なります。毎日が未経験のことへのチャレンジで、楽しさを感じています。この留学を通してパンづくりの技術を身につけるとともに、周囲の状況にも目を向け、職場の調整やチームワークにも働きかけられるようになっていきたいです。

※北海道・夢パン研修：北海道にあるPascoのベーカリーやセントラルキッチンにおいて、製品製造や製品開発、お客さまや小麦生産者との関わりなどを経験する、社内留学コース。

働きやすく働きがいのある職場づくりにより国や自治体から認定・認証を取得

Pascoは「性別・国籍に関係なく向上心に燃える社員一人ひとりに自己実現の場を公平に提供するため、機会平等の職場づくりに真摯に取り組む。」と経営理念に明記し、社員一人ひとりが働きやすく、働きがいのある職場の実現に向けて取り組みを進めています。特に「女性活躍」、「仕事と育児・介護の両立支援」に関しては制度の拡充や意識改革を継続して進めており、その取り組みや実績が認められ、国・自治体から認定・認証を取得しました。

2021年7月、愛知県の大村知事より
「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」の委嘱状を受けました

現在までに取得している外部認定・認証 一覧

2007年11月	愛知県「ファミリー・フレンドリー企業」登録・表彰
2009年7月	厚生労働省「くるみん」認定
2010年1月	名古屋市「子育て支援企業認定」
2016年8月	愛知県「あいち女性輝きカンパニー」認証
2017年1月	名古屋市「女性の活躍推進企業」認定
2019年1月	名古屋市「ワーク・ライフ・バランス推進企業」認証
2020年9月	愛知県「あいち女性輝きカンパニー」優良企業表彰 厚生労働省「えるぼし(2段階目)」認定
2020年10月	大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録 「男女いきいきプラス事業者」認証
2021年7月	東京都「家庭と仕事の両立支援企業」登録 「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」を委嘱

大阪府
「男女いきいき・元気宣言プラス」

厚生労働省の認定制度
「えるぼし」2段階目

東京都
「家庭と仕事の両立支援企業」

女性活躍推進研修を実施

2017年より女性のキャリアアップを促進するため、女性活躍推進研修を実施しています。2021年は7月に実施し、オンラインにて75人の女性社員が参加しました。以前から「身近にロールモデルがいない」という女性社員の声が挙がっていたため、2021年は「役職者として活躍する女性社員のパネルディスカッション」をカリキュラムに追加し、自身のキャリアや、役職者として働くことのイメージが描ける内容としました。

オンラインで行ったパネルディスカッションには執行役員から管理職・監督職まで、役職者として活躍する女性社員が参加

● 人事・労務に関する主なデータ

Pascoは男性の育休取得100%をめざし、男性育休支援のための取り組みを進めています。配偶者が出産する男性社員とその上司に向けた出産フォロー面談の実施や、育休取得時の収支シミュレーションの作成などで、育休の取得しやすい環境づくりを推進。近年男性育休の取得率は上昇してきており、2020年は14.9%となりました。

	法定基準	Pascoの規定		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
パートナー社員を含む社員数			男性	3,952人	3,681人	3,730人	3,671人	3,608人
			女性	1,744人	1,847人	1,891人	1,883人	1,753人
育児休業取得者(育児休業取得率)	原則として子が1歳に達するまで(ただし保育所に入所できないなどの特別な事情がある場合は2歳に達するまで)		男性	2人(2.9%)	0人(0%)	5人(6.3%)	10人(14.9%)	(＊)
			女性	35人(97.2%)	45人(100%)	47人(100%)	34人(100%)	
介護休業取得者	被介護者一人につき通算93日まで・3回を上限	被介護者一人につき通算365日・3回を上限	男性	0人	1人	2人	0人	0人
			女性	3人	1人	1人	4人	2人
短時間勤務利用者(育児)	3歳未満	小学校6年生終了まで	男性	0人	0人	0人	0人	0人
			女性	115人	127人	140人	155人	146人

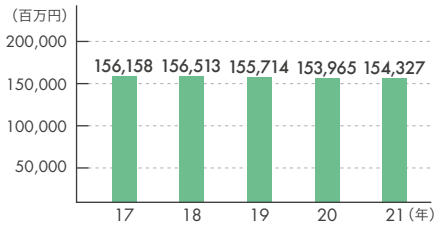
※データは、敷島製パン株式会社単体の値を示しています。　※育児休業、介護休業、短時間勤務とも、対象は正社員、パートナー社員を含みます。
※社員数は各年8月時点、その他は各年9月～翌年8月までの値を示しています。

＊「育児休業取得者」は各年8月16日～翌年8月15日までに出産した社員(男性の場合は配偶者)のうち、育休取得可能な期間において育休を取得した人数を掲載しています。最新年度については確定値の算出後に発行される、次年度のCSR報告書で掲載予定です。

$$\text{育児休業取得率} = \frac{\text{Ⓐのうち育休取得可能な期間において育休を取得した人数}}{\text{各年8月16日～翌年8月15日までに出産した社員(男性の場合は配偶者)（Ⓐ）}}$$

名　　称 ／ 敷島製パン株式会社
本社所在地 ／ 〒461-8721
名古屋市東区白壁五丁目3番地
事業内容 ／ パン、和洋菓子の製造、販売
創　　業 ／ 1920年6月（大正9年6月）
資 本 金 ／ 1,799百万円
売 上 高 ／ 154,327百万円
社 員 数 ／ 3,948人
工 場 数 ／ 国内に13工場
（グループ企業3工場含む）
事業所数 ／ 国内40事業所
取引銀行 ／ （株）みずほ銀行・
（株）三菱UFJ銀行

売上高の推移



製パン・製菓事業

1920年（大正9年）の創業以来、製パン分野は事業の中心的役割を果たしてきました。長い伝統に培われた技術力と、常に新しい価値づくりを指向するチャレンジ精神は、数々のロングセラー商品を生み、食パン市場で「超熟」シリーズがNo.1のシェアを獲得するなど、トップメーカーの自負と誇りをもって事業を展開しています。また、国産小麦“ゆめちから”の小麦粉を使用した「超熟 国産小麦」を発売するなど、食料自給率向上に向け取り組んでいます。
製菓分野においては、創業まもない1922年（大正11年）から製菓市場に進出し、おいしさや品質の向上を追求してきました。そのなかでも「なごやん」は名古屋を代表する銘菓として親しまれています。

冷食事業

高品質な冷凍生地や焼成後冷凍商品を全国各地のベーカリーや外食産業などへ広く供給しています。また、業務用や家庭向けの通販サイトを通じて、手軽に購入いただけるよう対応しています。

業務用冷凍パンのビジネスサイト「パンたす」
https://www.pasconet.co.jp/frozen
家庭用通販サイト「L'Oven」
https://www.pascoshop.com/loven

海外事業

香港・台湾・インドネシア・中国へ進出し、製パンホールセール事業、リテールベーカリー事業を展開。Pascoで培った技術やノウハウ、想いを伝え、それぞれの国の食生活にも貢献しています。「世界に羽ばたくPasco」をスローガンにPascoブランドを世界に広めるべく活動しています。

※各数値は2021年8月末現在あるいは2021年8月期

事業所

本社・カンパニー

本社テクノコア
パスコイーストカンパニー
パスコウエストカンパニー
パスコ冷食カンパニー

工　場

パスコ利根工場
パスコ東京多摩工場
パスコ湘南工場
パスコ埼玉工場
刈谷工場
犬山工場
大阪豊中工場
大阪昭和工場
神戸工場
神戸冷食プラント

ベーカリーサポートセンター

仙台ベーカリーサポートセンター
渋谷ベーカリーサポートセンター
岡山ベーカリーサポートセンター
熊本ベーカリーサポートセンター

営 業 所

北関東営業所	福井営業所	福知山営業所
千葉営業所	長野営業所	和歌山営業所
目黒営業所	松本営業所	山陰営業所
新潟営業所	浜松営業所	岡山営業所
甲府営業所	静岡営業所	広島営業所
富山営業所	津営業所	福岡営業所
金沢営業所	京都営業所	Pasco札幌事業所

セントラルキッチン

Pasco札幌セントラルキッチン

グループ企業

株式会社 四国シキシマパン
［パン・菓子類の製造・販売］

株式会社 信州シキシマ
［パン・菓子類の製造］

株式会社 イレブンフーズ
［パン・菓子類の製造］

愛知ミタカ運輸 株式会社
［パン・菓子類の輸送・配送］

株式会社 パスコ・エクスプレス
［パン・菓子類の輸送・配送］

パスコ・ロジスティクス 株式会社
［パン・菓子類の輸送・配送］

株式会社
レアールパスコベーカリーズ
［ベーカリーショップの運営］

海外拠点・合弁会社

香港	Panash Limited ［ベーカリーショップの運営］
台湾	Nisshi Chain co., Ltd. ［ベーカリーショップの運営］
インドネシア	PT. Nippon Indosari Corpindo, Tbk. ［パン・菓子類の製造・販売］
中国	上海頂盛食品工業有限公司 ［パン・菓子類の製造・販売］

第三者評価

おきな ゆり
翁 百合様

東京都生まれ。1984年慶應義塾大学院修士課程修了。同年日本銀行入行。92年に日本総合研究所に移り主席研究員などを経て、2018年より同研究所理事長。金融システムや経済政策の研究に携わる。京都大学博士（経済学）。この間、金融審議会、規制改革会議などの委員のほか、2020年～21年内閣府の「選択する未来2.0」懇談会座長などを歴任。現在、株式会社ブリヂストンなどの社外取締役もつとめる。［著書］「不安定化する国際金融システム」（NTT出版）など。

今回初めて第三者評価をさせていただくにあたり、過去からのCSR報告書も目を通させていただきました。創業の理念を継承し、環境変化を先取りして早くからCSRに会社として取り組み、第三者やアドバイザーの目を入れつつ、企業として社会的貢献の取り組みを地道に進めてきておられることに感心いたしました。報告書もカラフルで親しみやすく、厚さも適切で読みやすい冊子だと思います。

2020年は創業100周年の節目の年であり、本報告書は新たな100年に向けたスタートの報告書と位置付けられると思います。そうした観点から、報告書で興味深かったのは、スタートしたばかりのSDGs委員会活動の特集でした。まず目を引いたのは、「トップのコミットメント」で、盛田社長と社内の4つのSDGs委員会（飢餓ゼロ・健康、教育・ジェンダー平等、技術革新、つくる責任つかう責任）の委員長が、各委員会の分野での社会課題の認識を示し、Pascoとしての取り組みの方向とコミットメントを明確にしている点です。各委員長が現在の日本が抱えている社会課題を適切に把握し、委員会活動との関係を明確に説明しており、読者がとても理解・共感しやすい内容になっていると感じました。

ちなみに、私が2020年から21年に参加した内閣府の「選択する未来2.0」という日本の未来ビジョンを考える懇談会報告書でも、日本社会にとって少子化克服、女性活用や生産性向上がきわめて重要な課題と整理しています。Pascoがそうした問題意識を共有し、ワークライフバランスや働き方改革、技術革新に取り組んでいることに大いに共感いたします。

また、対談で頼もしく感じましたのは、教育・ジェンダー平等委員会の多くの構成員が未来を担う30代前後の若手であること、委員会活動は10年後の姿を考えて楽しくやりがいのある活動になり、意識も変わってきていること、社外との連携が出てきていることなどの紹介です。

各委員会活動の具体的なKPIや活動、委員会にかける社員の思いも1ページ毎に紹介されています。実現している成果がビジュアルに示され、参加している若手社員の生の声が紹介されていることがとても良いと思いました。東京大学大学院の山口慎太郎教授との「男性の家事参画」等に関する共同研究なども、Pascoの取り組みが研究成果として社会に貢献していくという、とても先進的で貴重な取り組みだと思います。これらの活動の今後の展開が大きく広がり、今後の報告書でも紹介されることを期待いたします。

第三者評価を受けて

家田 茂
敷島製パン株式会社
常務取締役 上席執行役員 総務本部長

このたび、Pascoを取り巻く社会課題と関わる、金融システムや経済政策、医療・健康分野の制度改革や技術革新、サステナビリティと企業の在り方など、幅広い分野の見識をお持ちの翁様に、CSR報告書2021に対する評価をお願いしました。

Pascoは、本報告書で紹介した4つのSDGs委員会の活動をはじめ、各職場での日常業務に至るまで、ステークホルダーのみなさまのご協力もいただきながら、会社を挙げてSDGsの取り組みを進めています。

第三者評価では、SDGsの枠組みによりPascoの活動を体系化し、取り組んでいく努力をお認めいただき、うれしく感じています。特に、未来を担う若手社員の声や、バックキャスティングの取り組みについてもご評価をいただけたことは、非常に励みになるお言葉でした。言及いただいた社外パートナーとの連携につきましても、今後さらに力を入れていく所存です。

次回に発行するCSR報告書では、SDGsに対するPascoの取り組みの進展について、引き続き、社員の生の声も交えながら、よりわかりやすくご報告してまいります。

翁様には、深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この報告書をお読みいただいたみなさまにおかれましては、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただくとともに、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敷島製パン株式会社
Pasco Shikishima Corporation

お問合せ先
敷島製パン株式会社 総務部 CSR事務局
〒461-8721 名古屋市東区白壁五丁目3番地
Tel.052-933-2111　Fax.052-933-9601　https://www.pasconet.co.jp

森の町内会 間伐に寄与する紙 www.mori-cho.org
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004803
Forest Stewardship Council®（森林管理協議会）の基準に基づき認証された、責任ある管理がされた森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

VEGETABLE OIL INK
地球環境保護のために、このパンフレットには植物油インキを使用しています。

2021.11